

科学読み物講座

科学の本ってこんなにおもしろい！ ～おはなし会をもっと楽しくするために～

講師：代田 みち子 氏

(子どもと科学をつなぐ会代表)

本日は代田みち子先生をお招きし、万華鏡や宇宙ごま、文字が書ける珍しい葉っぱ多羅葉、ダチョウの卵など、多くの科学あそびの作品に囲まれながら、おはなし会に役立つ科学絵本について楽しく学ぶことができました。

1. すぐれた科学絵本の存在

- ・手に取ってまずは多くの本を楽しんでみる
- ・読み聞かせ、BOOKトーク、やさしい科学あそびなどを取り入れてみよう

2人の子どもの子育てを通して、子どもの本がこんなにも豊かで、こんなにもすばらしいと知ることができました。子どもの本は大人の人生も豊かにし、また支えてくれると思います。

- ・過去を知り、現在を確かめ、未来をさぐる

石井桃子さんの手書きのメッセージの文に、子ども時代がいかに大切か示されています。

「子どもたちよ 子ども時代をしっかりとたのしんでください。おとなになってから老人になってから あなたを支えてくれるのは子ども時代の「あなた」です。」

今の子どもたちはどのように育っていくのか心配になる昨今です。本日は小学生を対象にした科学の本を中心に紹介します。

2. 「センス・オブ・ワンダー」の重要性

いろいろな自然の神秘に触れたとき、おどろきやきれいだなと思うその心が大切です。

{「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない} と、レイチェル・カーソンも言っています。そして、子どもたちには自然に親しむ直接体験と、本を読む間接体験をさせたいものです。

戦後、松居直氏は「科学の本にも感動を」と本作りを進められ、各分野の第一人者に執筆を依頼。多くの魅力ある作品が生まれています。加えて、海外の優れた科学絵本や読みの物が翻訳されてきました。そのため日本の科学の本は、すぐれた本が多くそろっています。これからはお配りしたリストに基づいて本の紹介をしていきたいと思います。



3. おはなし会に様々な工夫を

- ・物語の合間にどんな科学の本をいれるか

『ふしぎなナイフ』子どもの希望で繰り返し読む場合は、擬声語擬態語を使って読み方を変えてみるなどの工夫を。

『わたし』立場が違うとこうなるという絵本。

『おなら』とにかくおもしろい。説明はさらっと流したり省略してもいいと思います。

『アリからみると』視点を変えてみせるという科学絵本のおもしろさがあります。

吉田遠志の『動物絵本シリーズ』低学年に定期的に行く方、10巻位までがおすすめ。

『きたきつねのゆめ』『おおはくちょうのそら』

楽しいお話の合間に静かな愛情の世界を。手島さんの絵は遠目がききます。

『シロナガスクジラより大きいものっているの?』国立科学博物館にシロナガスクジラのオブジェあり。前書きはネタばれになってし

まうので読まない。あとの解説もくどくど読まないのが基本。低学年より高学年向きです。

『どうぶつしりとリエほん』こちらは少人数のおはなし会に向きます。聞き手と仲よくなりたい時、やりとりできるのでぴったり。

・季節のたよりや自然の恵みをさりげなく見せたり、取り入れたりしましょう。

『ずら〜りカエルならべてみると』全部読まなくても何ページか見せるだけでも面白い本。

『かぶとむしはどこ?』ひとつの命のサイクルを1冊のお話で見せてくれます。

・絵本は、子どもが買ってほしいといった時がチャンスです。ぜひ買い求めてください。

『ふゆめがっしょうだん』冬の季節に、また春の前におすすめです。

・時おり問いかけながら読む本で、聞き手との交流を持ちながら楽しめるといいですね。

・「ふしぎを知りたい」子どもに向けて科学の本の紹介をするだけでもヒントになります。

【ここで席を立ち、科学あそびの作品を手にとって見て試す時間が設けられました】

4. 科学絵本を読むときに気をつけたいこと

・質の高い「本選び」が大切。

子どもたちと一緒にあって、楽しんでいる方が作った紹介本は参考になるものが多い。

・知識を与えようとして科学絵本を読まないこと。本というものはこんなに楽しいものだと、子どもたちの心を揺さぶるような形での出会いを与えるようにしてください。そのために、読み手の皆さんが、自分で楽しむことができる本を選んでほしい。

・おすすめのリストにあっても読み手が魅力を感じない本は読まない。

5. 科学の本の魅力を広めていきたい

・自然の豊かさ、社会のしくみがわかる、自然のすばらしさを教えてくれる科学絵本は大人にも入門書になります。

『視覚ミステリーえほん』本を読むだけで科学実験ができます。ただ質問を投げかけるのではなく、なぜそうなるのかが大事。なぜ? どうして? に答えていくと興味が広がります。

『こんにちはあかぎつね!』ストーリーの中であそびながら、色の補色について学ぶことができます。読み聞かせではなく、何人かと一緒に遊べるものとしておすすめです。

『富士山大ばくはつ』『かわ』の加古作品

科学の本の分野ではかこさとしさんの貢献度は大きい。常に全体を俯瞰して物ごとを見ながら、本のテーマが描かれています。

『ソウの森とポテトチップス』環境問題を子どもたちにわかりやすくまとめた写真絵本。

〇終わりに

「科学は習っているだけでは楽しくない。自分で考えて、やってみて、おもしろいと子どもが感じるのが大事。小柴昌俊さんの言葉」

「不思議だと思うこと、これが科学の芽です。よく観察して確かめ考えること、これが科学の茎です。そして最後になぞが解ける、これが科学の花です。朝永振一郎さんの言葉」

なかなか花が咲くまでは大変ですが、せめて科学の芽をつむことなく一緒に子どもたちと楽しみたいものです。

子どもからの一言はとても教えられるものが多く、また楽しいものです。ぜひ子どもたちに向けて、明るい未来を語ってください。そして皆さんは、**小さなおどろきを演出する人**になってほしいと思っています。

